

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム愛敬（愛ホーム）	評価実施年月日	平成21年8月20日
評価実施構成員氏名	山中ひろみ 鈴木 操 高畠正英 萩山良淳 岡本ゆかり 佐橋直美 橋本尚恵 鉢呂真澄 深沢路子 佐々木美津子		
記録者氏名	山中 ひろみ	記録年月日	平成21年8月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>開所時に「のびのび、にこにこ、暖かく。ゆっくり、いっしょに、楽しく」の理念を作り、ホーム内に明示し、実践にとりくんでいる。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎日のミーティング時に理念を唱和し、常に理念を念頭におき実践に向け全員で取り組んでいる。</p>	○	<p>毎日ミーティング時に唱和を行い再確認し、介護員全員で取り組んでいる。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>説明文書への記載、ホーム内数箇所に明示し、家族や地域の人々に理解して頂けるようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>挨拶、気軽な声掛け合いもある。地域から見て、些細なことでも気に掛けていただき声掛けしていただいたり、お野菜の差し入れ等も頂き、良い関係を続けさせていただいている。</p>	○	<p>近隣に対し可能な協力をさせて頂き、円滑な関係を心がけている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>納涼祭、クリスマス会等の行事には、毎年家族・近隣の住民・役場の方々などの、参加協力を頂いている。小学校との交流、ボランティアの定期的来園もあり、交流の場となり理解を頂いている。</p>	○	<p>年3回の愛敬だよりの全戸回覧を続けている。小学校より行事案内（運動会・学芸会）を頂き、毎年参加させて頂いている。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会等を通し、「役立つことはないか」話し合いを行っている。</p>	○	<p>今後も話し合いを行い、実践・実施に向け取り組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善点について話し合い、具体的な改善につとめ、全員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。	○	改善についての話し合いを行い改善に努め、また良い点の向上に介護員全員で取り組み日々に介護に活かすよう努めている。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族会・民生委員・役場職員・包括支援センター職員が構成委員となり、2ヶ月に1回開催し地域との情報交換を行い理解を深めている。	○	日頃より地域・行政と密な情報交換がなされ、理解を深めている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	利用者の入所状況、事業所の行事等について役場の担当者に報告を行なっている。事業所便りの配布作業、利用者家族との連絡調整に関しても、行政の協力が得られている。	○	行事等の準備、お手伝いを頂いている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修等を通じ、学ぶ機会を持っている。今後も必要な場面での対応は可能である。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内で虐待はない。ミーティング等で虐待防止関連について、全員で話し合いを行っており、気が付かない中で虐待に繋がる行為が無いが、常に気にかけて注意をはらっている。	○	虐待防止に向け、今後も周知徹底し継続してゆく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明をさせて頂き、理解を頂いている。	○	今後も本人や家族の不安や疑問の聴取に努めてゆく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見等は聴取し、受け入れている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>月1回程度利用者の生活・健康状態等について、家族に報告を行っている。面会時・家族会等にも情報提供をさせていただいている。職員の移動等についても、お便りを通じて報告させていただいている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進委員会や家族会にて、家族の意見・要望を聞く機会を設けている。面会時に声掛けさせて頂き、意見要望を聞きミーティングで話し合い運営に活かしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全職員との個人面談により、意見を聞く機会を設けている。</p>	○	<p>ミーティング時にも職員より意見・提案を聞いている。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>状況に応じ、勤務の調整を行い対応している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>日頃から同法人の他事業所との交流を行い、利用者とは事業所職員が顔馴染みになっており、職員の移動に際して利用者への影響の無いように心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が年に1度外部研修に参加する機会を設け、職員は積極的に受けている。受講後は職員間での報告を行い、報告書を作成し研修の共有に努めている。内部研修も行い向上に努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会に加入し積極的に研修参加している。意見交換・情報交換のネットワークを構築している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	悩みの聴取等には常に気をつけ取り組んでいる。親睦会を行いストレス軽減になっている。	○	悩み・ストレスの軽減に取り組む、職員が話しやすい雰囲気を持つようさらに努めていく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	勤務状況の把握を行い、各自が向上心をもって働けるよう努めている。	○	より現場の意見交換と意見の反映に努めていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	大切なことであり、会話の中で本人の気持ちを引き出し、受け止める努力をしている。	○	相談時、本人よりじっくりと気持ちを聞くように努めている。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の思いを聞き、受け止めるよう努めている。	○	相談時、本人よりじっくりと気持ちを聞くように努めている。家族の意見や不安等を聞き受け止めるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族と接するうえで大切なことと心掛けている。今後も「その時」必要としている見極めを行い、対応に努める。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に職員は利用者本人・家族と面談を行い、施設見学をしていただき顔馴染みの関係を作り入所に繋いでいる。「あわてないこと、待つこと」をケアにおける基本とし徹底し安心して穏やかな生活を過ごせるように配慮している。	○	職員一同、情報の共有をし徐々に馴染めるように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理・洗濯物たたみ・歌・生活習慣等、利用者から教えてもらうことも多く、一方的な支援にならず一緒に楽しみ支えあう関係を築いている。	○	生活の知恵や料理など、教えていただくことも多くあり利用者の生活の張りとなっている。これからも生活の中で共有できる機会を作っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会の際には、日頃の状況を伝えるとともに、新たな発見や共感したこと等をお伝えするよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人との日常会話や面会時の雰囲気等より理解に努め、支援に活かしている。本人と家族の関係を大切に考え支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の面会には、ゆっくりと過ごして頂ける様な雰囲気作りに努めている。本人の希望する馴染みの場所への訪問等を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	耳・会話等に不自由をされる方も、孤立の無いよう仲介を行い充分配慮し支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了された方と継続し何年も関わりを持っている方は何人もいる。又そのご家族が、ホームの行事参加などをしてくださっている。転居先への訪問、元利用者の退所後も遠方の家族への連絡などを継続して行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者との日々の暮らしや係わり合いの中で、密にコミュニケーションを図り希望や意見を把握するよう努めている。困難な場合は、利用者の表情から心情を汲み取り本人本意となる様検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、生活暦や生活環境の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの身体状況や変化等、些細な事でも職員間で密に連絡を取り合い、引継ぎ等を通して、状況把握に努めている。	○	職員間での情報共有には力を入れ取り組んでいる。利用者一人ひとりの状況把握に全員で努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月2回行なわれているカンファレンスにおいて、利用者の状態を検討し職員で話し合い、利用者・家族の希望を取り込んだ介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月1回アセスメントの見直し、3ヶ月ごとに介護計画を見直しし、6ヶ月ごとに介護計画の作り直しを行っている。利用者に身体変化等があった場合は都度協議し、現状にあった介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、状況は個別の介護日誌に記入し全職員がその情報を共有し、実践や見直しに活かしている。	○	些細な事や会話の中からも気が付いたことを個別に記録し、介護に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院への付添い買い物、行事参加への送迎等柔軟な支援を行っている。終末期ケア、長期入院に至る際の連絡調整、退院後のリハビリ対応など、利用者が重度化となった場合も安心して生活が出来るよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの月2回の訪問、小学校の訪問、消防の避難訓練・救命講習の協力、警察の防犯協力等の支援を頂いている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	家族や本人と相談して必要に応じて対応している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの協力は常に行なっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回主治医の往診を受けている。協力医療機関との連携も密に取り柔軟な医療支援を行っている。医師・看護師との連絡体制もあり、緊急時の対応を行なっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的な通院を支援したり、現状を伝え医師に相談等を行なっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常に連絡を取れる体制にあり、相談し健康管理をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはこまめに訪問を行い関係維持に努めている。病院関係者との情報交換を行い、早期退院に努めている。	○	可能な限り早期に慣れた環境に戻れるよう対応をしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期の方針に関して看取りの指針があり、事前に利用者・家族と説明を行い事業所内にて医療支援が可能な限りは受けられる体制を整備し、家族と充分協議しながら実践している。職員の研修も実施している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の方がホーム内でより良く過ごして頂けるよう、職員間で話し合いを重ね、状況に応じ対応を行なっている。緊急時の対応についても話し合いが行なわれている。医師の指示を受けながら対応を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>関係者間で十分な話し合い、情報交換を行い少しでも住替えの際本人が受けるダメージが最小限ですむよう支援を行っている。本人が馴染んだ抵抗のないケアが継続されるよう配慮し対応を行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者のプライバシーを配慮し声掛け・対応を行なっている。記録・情報の扱いについても、保管場所・取り扱いに注意し適切に行なっている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの意志を尊重し、声かけを行なうとともに、自己決定の支援を行っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のリズム・ペースを大切にし、本人の思い・趣味を活かし生活できるよう支援している。</p>	○	一人ひとりの身体状況に合わせた支援を心掛けている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意志を尊重し、又関心が向くよう支援を行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>本人の出来ること、したいことを大切にし、力量に合わせ協力し買い物・食事の準備・調理・後かたづけ・頂いた食材の対応を共に行なっている。食事準備等は利用者の楽しみとなっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒・喫煙の習慣の方は現在いないが、おやつ・飲み物など利用者の希望に添うよう対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排尿パターンの把握に努め、スムーズな排尿につながるよう支援を行っている。必要時の、声掛け・誘導を続け入所時よりも失禁・オムツ使用は減っている。	○	排便状況一覧表を作成し、排便状況の把握に努めている。認知症という病気には排尿・排便が大きな影響があると捉えている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日の入浴は可能であり、希望・身体状況に合わせて支援している。浴室もゆとりを持って入浴できる作りとなっている。	○	バイタルチェックをおこない、状況を判断するよう対応し、本人の希望に添うよう支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりのペースや状況に合わせて支援している。夜間あまり眠れない時などは、介護員が話し相手になる等、落ち着かれ就寝できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理・外作業・掃除など生活歴・経験を活かし、楽しみとして行なえるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族との話し合いで、ホーム管理を依頼されている方が数名いらっしゃるが、買い物に出た際は、本人が支払い出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物・買出し・観光など本人の希望に合わせ支援を行いホーム内でも廊下を活用し散歩等に取り組み、運動不足にならないよう楽しんで継続できるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	天候・体調に配慮し、家族の協力も得ながら、本人の希望がかなうよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に合わせ対応・支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人の方の訪問は多く、訪問の際にはゆっくりと過ごして頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング時に、全員が正しく理解するよう勤めており、身体拘束をしないケアを実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間防犯の為の施錠は行っているが、通常の生活の中での施錠はなく利用者は自由に入出りができる。利用者の様子に合わせて、介護員が、見守り・付き添いを行い本人に合わせた支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	全職員、常に意識して安全確認に取り組んでいる。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所を決め、必要に応じ使用していただいている。一人ひとりの状況に応じての危険防止に取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤薬の無いよう常に心がけ、配薬・服薬にあたっている。配薬する者・服薬にあたる者のチェック、服薬完了までの見守り、服薬中の他者の薬管理など徹底し行なっている。窒息等が起きないよう、食事の際の介護員の配置も考え対応を行なっている。救命講習・避難訓練で知識を学び、事故防止に努めると共に、緊急時の対応を行なっている。	○	救命講習・避難訓練は各年2回の講習を受けている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に訓練を受け、万一の事故発生に備え対応出来るように努めている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防災訓練を行なっていると共に、災害時に備え対応できるように研修を行なっている。行政・地域との連携が取れており緊急時の協力が得られる。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族にはその都度、リスクについて十分説明しており、リスクに配慮しつつ生活が送れる様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	午前・午後のバイタルチェックを行い、一人ひとりの体調の変化を見逃さないよう常に心掛けている。気づいた点については、都度職員間で話し合い適切な対応を行なっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が配薬業務を行なっており、薬に対する理解に努め、服薬時も注意し対応にあたっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取・散歩への声掛けを行ない実施している。排便状況の把握に努め、服薬調整にも努めている。排便が及ぼす影響も理解しており、出来る限り普通排便できるよう食事にも配慮している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食事前に緑茶でのうがいを続け、食後も本人に合わせ、うがい・歯磨きを支援し行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量を記録・把握し対応している。健康状態に合わせて水分摂取方法（トロミ・ゼリー・容器）の工夫、調理・盛り付けにも工夫を行なっている。定期的に献立内容を栄養士に見てもらい、バランスの取れた食事が提供できるよう努めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防対策委員会を毎月1回開催し、ミーティング等を通し全職員に周知徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防に十分配慮し、調理器具・食器等の消毒の徹底を行ない、食材の管理を行い、作りおきのないようしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を飾る等、家庭的な雰囲気作りには勤め気軽に入って頂ける様に心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間にソファを設置し利用者が寛げるような空間にしている。共用空間以外にもゆっくり過ごせる場所もあり、思い思いに過ごしていただけるよう配慮している。飾り等で工夫をしホーム内においても季節を感じていただけるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の間の活用やソファの配置、廊下にベンチを設けて一人の時間を持ったり、自分の気に入った場所で過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は、おのおのの家族・本人の思いで家具・仏壇等の持込がされている。又、利用者と職員と一緒に考えて居室内の様様替えを行なうこともある。利用者が心地よく過ごせるように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度に気を配り、状況に応じた対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下の手すり設置、各トイレにも手すりを設置し（用途に応じ増やしている）一人ひとりの身体機能を活かせるよう、工夫し支援している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの状況に応じた声掛け等を行い、混乱等を防ぐよう努めている。職員や利用者同士の会話から、混乱等が生じないように配慮している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベンチを設置し、日光浴や散歩の休憩に使用し、暑いときは日陰になる中庭に出たりしている。洗濯干しなど、外でも活動できるように支援している。又、中庭やカーポートでも昼食会を行っている。</p>	



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

グループホーム愛敬は山や田んぼなど豊かな自然環境に恵まれており、地域の人々の交流が多く、のどかな雰囲気の中で利用者さんがのびのびと暮らしている施設です。自分の親が入ってもいいようにという視点を職員が持ち、利用者さんとゆっくり、一緒に、楽しく暮らすことを追求しています。